

# 「新たなステージへの挑戦」

住んでよかった！と思える、「元気なまち」を皆さまとともにつくっていききたい。

## 齋藤 文英プロフィール

昭和 27 年 1 月 20 日生（満 65 歳）

昭和 45 年 3 月 県立会津農林高等学校卒業

昭和 47 年 3 月 専修大学北海道短期大学卒業

平成 8 年 4 月 会津坂下町議会議員（～ 24 年 3 月）

平成 14 年 4 月 会津坂下町議会議長（～ 18 年 3 月）

平成 16 年 4 月 両沼地方町村議長会会長（～ 18 年 3 月）

平成 25 年 4 月 県立会津農林高等学校同窓会長

平成 25 年 6 月 会津坂下町長 就任

平成 29 年 4 月 両沼地方町村会長

平成 29 年 6 月 会津坂下町長 二期目就任

会津坂下町長  
齋藤 文英

### ごあいさつ

このたびの町長選挙におきまして、多くの皆さまのご支持をいただき、引き続き町長職を務めさせていただくこととなりました。その使命と職責の重大さにあらためて身の引き締まる思いです。

私はこれまでの 4 年間で、過去から未来への「継承」、町民とともにつくるふるさとの「創造」、誇れるまちへの「進化」を常に念頭に置き、町政の舵取りを担ってまいりました。お陰をもちまして、これまで取り組んできた施策の数々は、多くの町民の皆さまのご理解のもとで成果を上げることができ、今回、町政の継続と安定を求める多くの皆さまから信任をいただく結果につながったものと受け止めております。

今後も「愛する郷土会津坂下町のために」という思いのもと、町民の皆さまが住みやすさを実感し、町への愛着や日常の幸せを感じることができるよう、「生まれよかつた、住んでよかった。」と思える、魅力ある『元気なまち』を皆さまとともにつくり、次の世代に引き継いでいくために取り組んでまいります。

『元気なまち』会津坂下町の創造のために、町民の皆さまには、なお一層のご理解とご協力を、心からお願い申し上げます。

# 6つの施策を掲げ、まちづくりに取り組んでまいります！！

厳しい財政、身を持って改革し希望の持てる『ばんげ』

厳しい財政状況の下、将来に負担を残さないよう、財政の健全化に身を持って取り組むとともに、町民に不安を与えないよう情報開示をまいります。なお、昨年度策定いたしました第2次会津坂下町行政経営改革プランに沿った行政経営改革の取り組みを進め、町民が希望の持てるまちを実現してまいります。

町民の声を反映できる、住みよい『ばんげ』

町の宝は「人」であります。協働のまちづくりを一層推進するとともに、世代を超えた地域・学校・家庭の連携の推進、地域コミュニティ活性化のしくみづくりを進め、人材の育成と、町民が進んでまちづくりに参画し、住みやすさを感じることのできるまちを実現してまいります。



一人ひとりの個性と創造力を伸ばす人を育む『ばんげ』

まちの維持・発展の観点からも、次代を担う子どもたちの育成は重要であり、子どもを安心して産み育てられる環境の整備、安心で信頼ある教育の場の提供、誰もが主体的に参加できる生涯学習の推進など、これまでの取り組みをさらに推進してまいります。

みんなが元気で、安心して暮らせる『ばんげ』

町民が健康で安心して生活できることが「元気なまち」の基盤です。健康なからで元気に暮らすことのできるしくみづくりと、生きがいを持って安心して暮らすことのできる福祉の充実を進めてまいります。また、「会津坂下町地域防災計画」に基づき様々な災害への備えを進め、災害発生時には迅速な対応ができる、災害に強い安全・安心なまちづくりに取り組んでまいります。



人が集まり活力ある産業が生まれる『ばんげ』

特色を生かした農林業や個性を生かした商工業の振興、温かくもてなす観光の推進など、町の魅力を積極的にPRし、人・モノ・情報の交流を促進してまいります。さらに、人口減少の抑制を図るため、移住者への住宅支援をはじめとする移住・定住促進の取り組みを進めてまいります。

田舎らしさと、自然が輝き笑顔あふれる『ばんげ』

地域環境を意識した循環型社会を形成するとともに、快適な生活環境の整備と利用しやすい交通網の整備に取り組む、豊かな自然環境など田舎らしさを大切にしながら、「ちよつと便利な田舎町」をモットーにまちづくりを進めてまいります。

さらに、現在の庁舎は建設から55年が経過し、耐震診断からも早期の対応が必要とされています。防災拠点としての機能整備、駐車場の確保、分散している行政機能の集約などによる住民サービスの向上を図るため、最重点事業として新庁舎建設の取り組みを進めてまいります。